

【資料2】
平成21年度 伊万里市立波多津小学校 学校評価結果

1 学校教育目標
「自ら学び 思いやりを持ったたくましい子どもの育成」 校訓：精いっぱい



2 学校経営ビジョン
<p>【めざす学校像】 ・地域・保護者に信頼される学校 ・一人一人が生き生きとした学校 ・規律のある学校</p> <p>【めざす教職員像】 ・教育公務員としての自覚を有し、児童、保護者、地域社会から信頼される教師</p> <p>・日々新たに研修、研鑽に励む教師 ・一人ひとりの子どもを愛し、教育に使命感を持つ教師</p> <p>・健康保持に率先して努め、心身ともに健全ではつらつとした教師</p> <p>【めざす子ども像】 ・自ら進んで学ぶ子(勉強いっぱい)・思いやりがある子(やさしい)・健康でたくましい子(元気いっぱい)</p>



3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
<p>(1) 「自ら学ぶ力」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己教育力の育成と個性の尊重 学力向上方策の推進 <p>(2) 「心に響く教育」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 豊かな人間性を培う心の教育 人権・同和教育、特別支援教育の推進と意義の高揚 <p>(3) 「一輪車教育」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康教育の推進と体力の向上 安全教育の徹底 	<p>・本校の特色である「一輪車教育」を柱に、地域に開かれた学校として教育活動を展開したことについて、職員・保護者・児童・地域へのアンケート結果からも高い評価を受けていることがわかる。また、昨年度は、「体験活動」を重視し、各学年が児童の実態等に応じた様々な体験活動を積極的に行った。これらの体験活動を通して、保護者や地域の方々とのふれあいができ、本校児童のコミュニケーション力の向上にもつながった。さらに、保護者や地域等に対する情報発信が前年度以上にできたことにより、学校の具体的取組内容を啓発し、保護者の理解・協力を得ることができたものと思われる。</p> <p>・学校内では、職員間の報告・連絡・相談の徹底を常に心がけたこと、職員一人一人が“教えるプロ”としての自覚と熱意を持って教育活動に取り組んでいったこと、そしてそれを支える温かい職員集団であったことが、校教育への高い評価につながる要因の一つではないかとも思う。</p> <p>・今年度も、本校の特色である「一輪車教育」を柱に、子どもたちがたくましく健やかに成長していけるような教育活動を進めていく。教育課程編成に伴う対策・対応(学校行事の精選・見直し等)も考慮に入れ、教師集団が一致団結し、児童一人一人を大切にすることを進めていく。また、地域の自然や人材を活用した体験活動の充実により、子どもたちにコミュニケーション力を含む「生きる力」をつけさせる取組を昨年度以上に進めていく。そして、学校の思いや児童や職員が校訓どおり精いっぱい取り組んでいる様子等を、具体的に機会あることにお便り等で紹介し、“保護者・地域に信頼され愛される魅力ある学校づくり”を推進していく。</p>



5 総括表						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
学校運営	●学校経営方針	学校教育目標、校訓及び重点項目の周知徹底	教職員、児童、保護者、地域の方々に周知し、認知率を教職員は100%、児童は90%、その他は85%以上にする。	A 具体的目標はすべて達成できた。	<ul style="list-style-type: none"> 教職員には職員会議や打合せの時間を使い、児童には全校朝会等で説明した。 保護者へは、校長の学校便りや各担任からの学級通信、懇談会で周知した。 地域の方には、学校便りや学校ホームページ、育友会会合等で説明した。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年よりさらに、地域の方々・児童・保護者の認知率が上がった。 学校便りなどの印刷物やホームページ、口頭等で機会あることに繰り返し周知を図ってきたい。
	◎情報モラルの徹底	パソコン・携帯電話使用の際のルール・マナーの周知徹底	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラルについての職員研修を実施する。 パソコンや携帯電話の使用について、各学年で随時指導する。 各学年、「情報リテラシー」についての授業を年1回以上行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修並びにパソコン等の使用についての指導は、実施できた。 本校の実態から、「情報リテラシー」を取り立てての授業は行わなかったが、各学年とも、学級活動や教科でパソコンを利用する際にそのルール・マナー等についての指導を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 育友会役員会や保護者会等で、パソコンや携帯電話の使用についての危険性等の情報を提供し、使用の際には家庭での約束を必ず決めるよう喚起した。 長期休業中の前には、「よい子の生活」を配布し、学級懇談会や学級指導の際具体的に指導した。

	○教職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営に資する学習指導力の向上 ・服務規律の保持 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数科を中心に授業研究を進め、担任全員が年1回の全校授業研究会を実施する。 ・全職員が、センター講座、県内外の研究発表会等に積極的に参加し、出張報告会で報告する。 ・教職員の事件・事故0件を目指す。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・算数科の全校授業研究会に加え、教育実習生に対して全職員が授業公開を行った。 ・職員研修として、実技指導等も加えた出張報告会を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講師の指導助言を得て、「分かる授業」への創意工夫と客観的な自己評価をした。 ・各種研究会の案内を随時全職員に周知し、参加を積極的に勧めた。 ・職員一人一人の「服務規律」のファイルを活用し、機会あるごとに具体的事例をあげて服務規律についての注意喚起を促した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「職員はほめるところはほめ、しかるところはしかる」という評価について、児童・保護者ともに高い評価を受けている。 ・職員が交通事故を起こさないように、すべての職員に、「ゆとりをもって行動すること」と具体的事案を紹介しながら指導を続けた。今後も、事故を含めた「服務規律の保持」については、職員一人一人の事としてとらえるよう、機会あるごとに注意喚起を行っていききたい。
	○校種間連携	<ul style="list-style-type: none"> ・青嶺中学校区教職員連絡協議会の実施 ・幼保小連携の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・北部4校の連絡協議会を年に3回以上設定し、各校の取組について共通理解を図り、また職員の交流を図る。 ・夏季休業中に、全職員が、保育園または幼稚園への保育参観を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・北部連絡協議会の開催とともに各部会での研修会も実施できた。 ・夏季休業中には、全職員が保育園で保育参観を行った。 ・本校から幼稚園や中学校の授業参観を行ったり、幼稚園・保育園から本校への授業参観があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各校の校内研究、学力向上方策について、協議会等を通じて、広く情報を収集した。 ・幼保小連絡協議会及び相互授業参観を行い、情報交換や相互理解を図った。 ・学校便り並びに保護者授業参観の案内を各校・園にも送り、学校の様子を積極的に知らせたり機会をつくったりした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・北部の各保育園や幼稚園・小中学校と学校便りを取受したり授業参観等の案内を出し合うことで、各学校の様子や行事がよくわかった。 ・保育園・幼稚園との職員及び子どもたち同士の交流をさらに進めていくためには、行事の案内など早めの情報提供・交換が必要である。 ・中学校との連携(中学校からの乗り入れ授業等)を積極的に進めていきたい。
	○開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭、地域との連携育友会との連携強化 ・地域や公民館、各種団体との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・年7回の育友会評議員会を開催し、育友会行事の充実を図る。 ・各種行事への保護者の参加率を70%以上にする。 ・様々な会合の中で情報交換を積極的に行う。 ・学校便り(波小だより)を月2回以上発行し、校区内の家庭へも配布する。 ・ホームページの更新率を随時70%以上にする。 ・保護者や地域の方々へ毎月の授業参観や学校行事等の案内及び周知を図り、保護者の参加率を75%以上、地域住民の来校を100名以上にする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校からの情報発信は目標数値を達成。特に、ホームページはほぼ毎日更新した。(更新率70%以上) ・学校行事への保護者の参加率及び地域住民の来校の目標数値も達成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年分会行事や専門部活動を充実し、保護者間の連携を密にした。 ・案内状等を早めに作成配布し、保護者の参加計画を立てやすくした。 ・学校便り、学級通信、校長掲示板を定期的に発行し、ホームページ等で随時更新することにより、情報発信をした。 ・授業参観や学校行事等の参加を積極的に呼びかけたり、学校に気軽に来校できる雰囲気作りに努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校区内の全世帯へ学校便りを配布することにより、保護者・地域からの「学校の様子がよくわかる」の評価点が、どちらも高得点だった。 ・学校便りやホームページに児童の学校生活の様子を分かりやすく掲載することで、家庭での親子の会話のきっかけともしていきたい。
教育活動	●学力向上	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な学習習慣の形成と算数科における学力向上と基礎・基本の確実な定着 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校では「チャイム席」「次の時間の準備」、家庭では「テレビなし」「机の上で」の達成率85%以上を目指す。 ・CRT検査において「数学的な考え方」「表現・処理」「知識・理解」の3つの観点項目が、どの学年も全国通過率100を超える。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での「チャイム席」及び家庭での「テレビなし」については、達成率85%にやや届かなかった。 ・CRT検査結果で、3つの観点項目とも全国を上回っている学年は、3、5年。2項目が上回っている学年は、1、4、6年。2年は1項目のみ上回っていた。 ・学力向上や学習習慣への取組についての評価は、保護者・児童・地域から高い評価を受けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ぐんぐんだよりを発行し、学力向上への取組について保護者に周知し、家庭での学習習慣について協力をお願いした。 ・校内研究の計画に沿って効果的な「練りあい活動」「自己評価活動」の研究をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて児童会話し合い、「チャイム席」を目標に、取り組みを進めることができた。 ・基本的な学習習慣の定着については、「学校と家庭との約束」として、学校・家庭で連携して取り組んでいく必要がある。 ・個別の支援が必要な児童が多い学年には、級外職員がTTとして入り、基礎基本の定着を図るようにした。今後もこの取り組みは続けていきたい。
	●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の時間の充実 ・教育活動全体を通しての計画的、組織的な人権・同和教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回以上、全学級で保護者が参加する授業公開を行う。 ・相手の立場を考え、みんなで助け合えるようにするため、縦割り班活動を通じた仲間作りを充実させる。 ・ものを大切に、人を思いやる優しい心を育てるため、花いっぱい活動やボランティア活動に取り組みさせる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な目標はすべて達成できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・週1時間の道徳の授業を確保した。 ・いのちの教育指導資料や心のノートを活用し、命に関わる内容の授業を展開した。 ・「友だちのよいところ見つけ」を奨励し、お互い認め合い、協力し合う学年集団の育成と自主性の向上を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2月に「ふれあい道徳」授業公開を実施。多くの保護者・地域の方々の参観があった。授業後のアンケートでも、本校の「心の教育」への取組について高い評価を受けた。 ・今後さらなる授業の充実のために、教材や教具等、学校保管(ファイル化等)にして全職員が共有できるようにしていきたい。 ・「人権」についての学校の取組や児童の実態を見ていただくためにも、「人権集会」への多数の保護者の参観を勧めていきたい。

●健康・体力づくり	望ましい生活習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・一輪車を通して、平衡感覚を身につけると同時に体力の向上を図る。 ・集団の規律ある行動を通して、集団への認識を深めると共に、自立・共同の態度を養う。 ・年間を通して、性教育の指導を行う。 ・う歯治療率やかぜの罹患率を減少させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的方策は達成したが、昨年度より、う歯治療率やかぜの罹患率を減少させることはできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週木曜日、朝の時間を活用した「健康タイム」や年に2回一輪車教室を設定した。 ・学年に応じて、性教育年間指導計画を作成した。 ・給食後に「歯磨き推進曲」、2校時の休み時間に「手洗い・うがい推進曲」を流し、意識の定着と継続を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5月の「波小オリンピック」(一輪ピックと運動会)を中心に、全校で一輪車の練習に励み、すばらしい技を披露。参観者から多くの拍手をいただいた。また、2月には技術指導を受け、新しい技にも挑戦・取得できた。さらに、3月の模範演技鑑賞会を受けて、一輪車の技習得に向けての関心が高まった。 ・本校児童の生活習慣アンケートの結果や実態をもとに、養護教諭を中心に、保護者・児童への健康についての情報発信(おたよりや講話等)と具体的指導がなされた。 ・手洗い・うがい・ハンカチを持つことなど、保健・衛生面の指導を、家庭と連携しながら強化していった。
◎不登校の未然防止	一人一人の子どものニーズに応える教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども支援協議会を月1回確保し、児童の実態把握に努める。 ・不登校児0を継続する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的目標は達成できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習面、行動面等における気になる子を把握し、支援方法を考える。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールリーダーや関係機関とも連携を取りながら、よりよい方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員で全児童一人一人への共通理解を図り、早期発見・早期対応ができた。 ・スクールカウンセラーに加えて、スクールヘルスリーダー、スクールソーシャルワーカーの支援・指導を受けることができ、児童・保護者等への対応や支援についての理解が深まった。 ・保育園、中学校との連携も強化し、よりよいつなぎをしていきたい。
◎食育等を通じた健康づくり	望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、食育に関する授業や指導を担当及び養護教諭が行う。 ・「朝ご飯」を食べる児童の率を100%目指す。 ・栄養指導と養護教諭による講話・授業を年1回実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的目標は達成できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭や栄養指導等との連携を図った食育指導を行った。 ・養護教諭による「保健便り」で保護者への啓発・協力を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月のフリー参観日に合わせて「食育」に関する講話と授業を栄養指導に実施していただき、保護者の方々にも家庭での食育について一緒に考えていただく良い機会となった。 ・「食」の大切さについては、今後も、家庭と密に連携をとりながら具体的な例をあげながら進めていきたい。
○読書指導 学校図書館教育	読書活動の推進と「家読」の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人の目標読書冊数の達成率100%を目指す。 ・朝の読書タイムを充実する。 ・月1回(毎月最終火曜日)「家読の日」を設定し、各家庭での取組率70%以上を目指す。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の児童の総貸し出し冊数は、昨年度より増加した。 ・読み聞かせボランティアの方々の協力で、毎週火曜日朝の読書タイムが充実できた。 ・「家読の日」の取組率は、70%を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館に親しませるために、図書委員が企画・運営する「図書館祭り」を年2回開催した。 ・学年や個人に応じた目標冊数を決めた。 ・保護者・育友会・公民館とも連携し、「家読」の具体的取組についての情報の発信に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の読み聞かせや児童や職員「おすめの本」の取組は、児童の読書意欲を高めることができた。 ・保護者や職員を対象に「家読」についての研修会を行い啓発を図った。今後も、家庭での実際の取組が進んでいこう、情報発信・啓発を継続的に行っていきたい。
特定課題	基本的な生活習慣・学習習慣の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・始まりの時刻を守らせる。(チャイム席) ・教師や友だちの話を最後まで聞くことを徹底させる。 ・授業前に学習道具を準備することを徹底させる。 ・*上の各項目の達成率について、いずれも90%以上を目指す。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童による自己評価の結果、具体的目標についてはA評価。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイムの鳴り始めて行動させた。 ・話を聞く際の3つの約束事を徹底させた。 ・学習準備をしてから休み時間をとるように声をかけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年当初に指導を徹底したことと全学年で取り組んでいることにより、本校の「約束」として浸透している。 ・あいさつ・返事については指導を続けているが、個人差がある。全体指導に加えて一人一人の児童の実態に応じた個別指導も必要である。家庭・地域と連携・協力しあいながら、取組を進めていきたい。

◎家庭教育力の向上	<ul style="list-style-type: none"> テレビ視聴の制限 伊万里っ子しぐさの徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 「がんばりカレンダー」の回収率100%と各家庭が決めた目標テレビ・ビデオ視聴時間の達成率80%を目指す。 「伊万里っ子しぐさ」の周知率を、児童・保護者ともに80%以上をめざす。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「カレンダーの回収率と、テレビ・ビデオ視聴時間の達成率ともに、目標数値を下回った。 「伊万里っ子しぐさ」の周知率は目標を達成したが、その活用については、まだまだである。 	<ul style="list-style-type: none"> 「育友会と連携し、テレビ視聴と早寝の「がんばりカレンダー」を作成・配布・回収し、取組の啓発と習慣化を図った。 「伊万里っ子しぐさ」カレンダーの項目については、全校的にも各学級でも児童に周知・説明し、保護者にもホームページで紹介した。DVDの視聴を授業参観時に実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎学期末に保護者及び児童向けの「生活・学習アンケート」を行うことで、望ましい生活習慣づくりや「伊万里っ子しぐさ」の啓発の1つとした。 「育友会とも連携して、「早寝」と「減テレビ・減ゲーム」「伊万里っ子しぐさ」の取組については、数値目標を掲げると共に各家庭の取組など情報交換会等を行うなど積極的に取組を進めていきたい。
○特色ある教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな表現力の育成 自ら学ぶ力の育成 心に響く教育の推進 一輪車教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 各関連行事ごとの職員の実省アンケートにおいて「ほぼ達成できた」項目の回答率を90%以上にすする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「夢づくり」「確かな学力の定着」「たくましい心と体」を3本柱に据えた行事を計画した。 	<ul style="list-style-type: none"> 「夢づくり」「確かな学力の定着」「たくましい心と体」を3本柱に据えた行事を計画した。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の編成に伴い、学校行事の精選を行った。各行事の変更・主旨等については、事前にきちんと保護者に説明を行うことで理解・協力をえることができた。今後も、教育反省や保護者等の意見を参考にしながら、行事の再構築をしていきたい。



6 総合評価
<p>今年度重点的に計画し取り組んできたことは、職員・保護者・児童・地域へのアンケート結果からも概ね達成できたと思われる。</p> <p>本校の特色である「一輪車教育」を柱に、地域に開かれた学校として教育活動を展開しており、このことは、ここ数年来、保護者・地域からも高い評価を受けている。今年度も、「体験活動」を重視し、“本物”にふれる、“地域の達人”“専門家”に学ぶことを積極的に行った。これらの体験活動を通して、保護者や地域の方々とのおふれあいができ、本校児童のコミュニケーション力の向上にもつながってきている。また、今年度は、「チェンジ(ニュー波多津小)」を児童・保護者・地域に宣言し、学校行事の精選や統合等を積極的に行っていた。これら学校行事等へのアンケート結果をみると、概ね良い評価を受けている。さらに、保護者や地域等に対しての情報発信(月2回以上の学校だよりの校区内全世帯への配布、学校ホームページのほぼ毎日の更新、はなまる連絡帳の有効活用、町内行事への参加等)ができたことにより、学校の具体的な取組内容を啓発し、保護者の理解・協力を得ることができたものと思われる。</p> <p>学校内では、職員間の報告・連絡・相談の徹底を常に心がけたこと、職員一人一人が“教えるプロ”としての自覚と熱意を持って教育活動に取り組んでいったこと、そしてそれを支える温かい職員集団であったことが、今年度の本校教育への高い評価につながる要因の一つではないかとも思う。</p>



7 来年度の改善策
<p>本校の特色である「一輪車教育」を柱に、今後も、子どもたちがたくましく健やかに成長していけるような教育活動を進めていきたい。</p> <p>今年度「チェンジした」また「チェンジしよう」と計画した学校行事等を進めて行きたい。そのためには、今年度以上に教師集団が一致団結し、児童一人一人を大切にする教育を進めていきたい。また、地域の自然や人材を活用した体験活動をより充実させることにより、子どもたちにコミュニケーション力を含む「生きる力」をつけさせる取組を今年度以上にさらに進めていきたい。そして、学校の思いや、児童や職員が、校訓の通り“精いっぱい”取り組んでいる様子等を、具体的に機会あるごとにお便り等で紹介し、これからも、“保護者・地域に信頼され愛される魅力ある学校づくり”を推進していきたい。</p>

●は共通評価項目、○は独自評価項目